



JUNダッシュ導入・栽培ガイド

土壌環境を整え、収量と品質を最大化する「成功の法則」

✓ 土作り：団粒構造の形成
と微生物の活性化

✓ 品質向上：根張りの強化
による栄養吸収の最大化

✓ 病害予防：連作障害や
線虫に強い土壌環境

本資料は、米・ブドウ・レンコン・根菜類・堆肥作りにおける最適な使用フローを体系化したものです。

なぜ、JUNダッシュで作物が変わるのか？



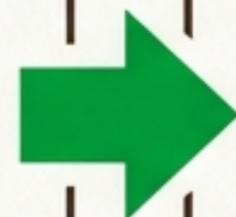
土壌微生物の活性化

有用微生物が住みつき、バランスの良い土壌環境を作る。



団粒構造の形成

通気性と保水性を兼ね備えた、ふかふかの土(団粒構造)へ変化。



根張りの強化

根が広く深く伸びることで、土壌からの栄養分をしっかりと吸収。

結論：災害に耐える強い木、病気に強い土、そして「甘くて美味しい果実」が育つ。

基礎を作る：高品質・無臭堆肥の製造フロー

1 混合と散布

生の家畜ふん（牛・豚・鶏・馬）に、50～100倍に希釈したJUNダッシュシユを撒く。（水分目安60%）

2 切り返し

発酵中は60～70℃の熱を持つことで、病原菌や雑草の種子も死滅

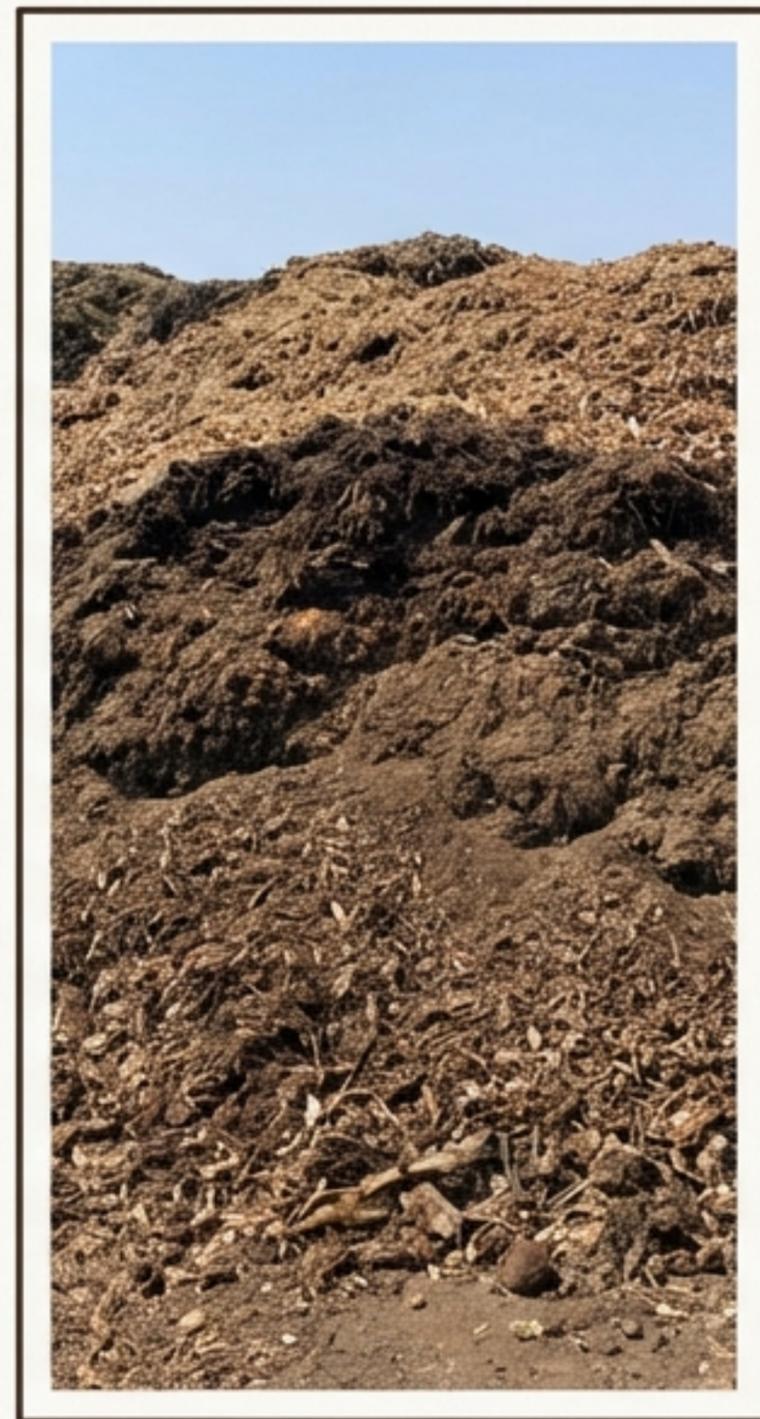
1ヶ月に1度程度、JUNダッシュシユを撒きながら切り返す。

3 完成

3～4ヶ月でサラサラとした完熟堆肥が完成。

結果：臭いが軽減され、フーフカの畜ふんになり、量も約半分以下になる

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 家畜ふん 1トン (1,000kg) | 希釈液500L (原液5L～10L) |
| 家畜ふん 2トン (2,000kg) | 希釈液1,000L (原液10L～20L) |



作付計画：米（コシヒカリ・関東東参照）

除草剤不使用・化学肥料不使用



使用注意：1反あたり米の作付け①～⑥に使用する液肥の合計は約10L。

果樹栽培：ブドウの糖度と色艶を極める



定植時（苗木）

頻度：1週間に1回 | 濃度：200倍希釈液をたっぷり散布

成木（実がなるまで）

期間：春～秋 | 頻度：1ヶ月に1～2回 | 濃度：100倍希釈液

発芽～収穫期

期間：3月末～6月初旬 | 頻度：10～14日に1回 | 濃度：100倍希釈液

収穫後（お礼肥）

期間：2ヶ月間 | 頻度：10～14日に1度

目標使用量：20a（2反）＝原液 5L | 100a（1町）＝原液 25L

レンコン栽培：線虫対策と品質向上

課題：線虫被害

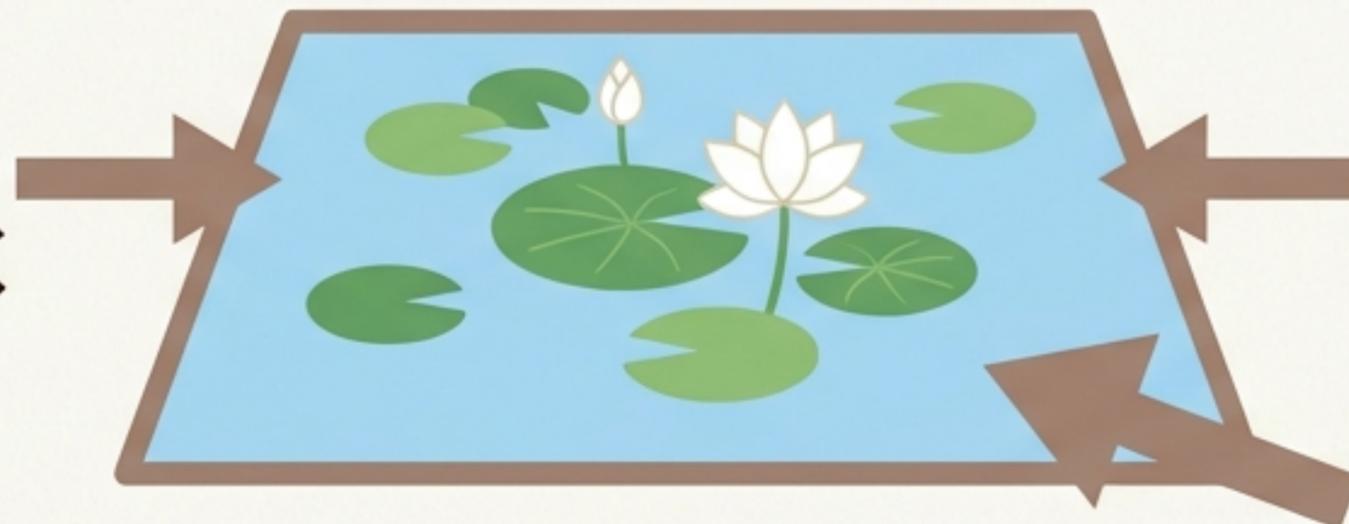
団粒構造の土壌には線虫が住みづらくなるため、予防につながる。
結果、肌の白い綺麗なレンコンが育つ。



施用方法（使用例）

解決策：団粒構造

元肥（3月植付け前）
- 蓮田の周囲に原液を撒く
（給水口付近に多め）



追肥（6月～7月）
- 元肥同様、周囲に撒く

給水口付近に多め

使用量目安：10a（1反）あたり | 元肥 5L + 追肥 5L = 合計10L

根菜類・イモ類：病害予防と圧倒的な生育差



もとぐされ病 / そうか病



対策なき土壌のリスク



JUNダッシュ使用区



驚異的な根張りと地上部の生育（里芋の例）

作物別・使用量マスターテーブル

| 作物名 | 時期 | 希釈倍率 / 方法 | 使用量目安 |
|-------------------|-------|----------------|----------------|
| 米 (Rice) | 育苗期 | 100-200倍 (週1回) | 1反あたり約10L |
| | 本田 | 100倍 (3回散布) | |
| ブドウ (Grapes) | 苗木 | 200倍 (週1回) | 20aあたり5L |
| | 成木 | 100倍 (月1-2回) | |
| レンコン (Lotus) | 元肥・追肥 | 原液を周囲に散布 | 10aあたり計10L |
| 堆肥作り (Compost) | 発酵時 | 50-100倍希釈 | ふん1tあたり原液5-10L |

数値は目安であり、土壌の状態や気候により調整してください。



豊かな土壌が、 未来の食を作る。

JUNダッシュは単なる肥料ではありません。
微生物の力を借りて自然本来の循環を取り戻し、
「作り手」と「食べる人」の両方に喜びをも
たらす農業パートナーです。

導入に関するご相談・ご注文はこちら